

紙つて

二月のシチリアはまだ寒い、春が近づくとレンギョウが黄色い花を咲かせる。ほぼ同じ頃、桜にそっくりな花が満開となる。少しだけ暖かい日差しの下で小さなピンク色の花が咲きこぼれる様は、そこにギリシヤ神殿がなければ、まるで日本の春の風景のようである。

桜に見まじう花は、聞けばアーモンドだといふ。調べてみると、どちらもバラ科で、アーモンドはサクラ属だから驚いたのも無理はない。

このアーモンドを使ったお菓子は「フルッタ・マルトラーナ(マルトラーナのフルツン)」と呼ばれていて、色鮮やかな和菓子といった風情。アーモンドの粉と砂糖を練って

シチリアの春

武田 好

手作業で果物の形にし、色付けしたものである。マルトラーナはシチリアの州都パレルモにある教会の名で、寒い時期に修道女たちがアーモンドを使って果物を模した供え物を作ったことに由来する。今ではシチリアのお土産として年中、店先を飾り、そのかわいらしさに思わず足を止めてしまう。

はるか昔、ギリシヤの植民市が多くあつたシチリア島には、古代ギリシヤの神殿が残っている。地元の人々が、地面に緑濃い葉を広げる植物を指さして「これがアカンサスだよ」と教えてくれた。建築物の柱頭によく見る葉の装飾モチーフである。目の前の神殿にそれはないようだから、街に戻って探してみよう。

早春に思い出す南イタリアのニコマである。(静岡文化芸術大教授)

2020.2.15

2020.2.15

中日新聞(夕刊) P.1